

人 ピープル



毎日書道展で最高賞に選ばれた
岩崎 澄子さん(71) 天川大島町

受賞を励みにもつひと頑張り

第五十四回毎日書道展の漢字類の部で毎日賞に輝いた。半世紀以上の伝統を誇るこの書道展は、公募出

品数もわが国最大の規模。八つある部門からそれぞれの最高作品に与えられる毎日賞は、とても権威ある賞

といえる。「入賞決定の通知を封書でいただいたのですが、まさか毎日賞だなんて思ってもいなかったので、驚きました。十八年前に初出品して、二年続けて秀作賞を取って以来の大きな賞です。書道仲間からおめでとつと言っていただけ、うれしさが増してきましたね」

受賞作は、唐代の詩人・韋莊の漢詩「長安の春」を縦六尺、横二尺の額装にした作品。七十字を四行に配置した。

「あまり大きな字は息切れがして書けないんです。ですから、字数が多くなるよう、題材にこの漢詩を選びました。変化を付けたくて、字の大きさをいろいろ変えたり、行間の幅にも気を付けたり、工夫したんで

す。展覧会の出品前には、毎日三、四時間は書くのですが、なかなか納得いく作品ができなくて」

会社員だった二十歳のころ、友人に誘われて書の道に。その後、中央公民館の成人学校・書道教室で、当時講師をしていた、現在の県書道協会会長・西林兼宣さんに出会い、四十年間、指導を受けている。

「西林先生から、石舟 という雅号をいただき、師事しています。ここまで続けることができたのも、わたしのやりたいことを、先生が伸ばしてくれただけです。そのご恩に伝えるためにも、受賞を励みにもつひと頑張りしたいと思っています」

謙虚に受賞の喜びを話す口調の中に、並々ならぬ創作意欲が感じられる。心は青春そのままに若々しい。

学校つうしん 交流深める 美化活動

二中では、生徒会活動の一つで、夏休みの期間を中心に、地区別の美化活動を行っています。地区の行事に積極的に参加し、住民との交流を大切にすることが狙い。生徒たちは、事前に自治会との打ち合わせをして、それぞれの町単位で活動内容を決めます。

八月四日は、三河町一丁目の生徒たちが、地区の人たちと一緒に住民



広場の草むしりを実施。早朝のさわやかな日差しを浴びながら、生徒たちは地区の人たちと協力し、気持ちの良い汗を流しました。

Pick up ぴっくあつぷ

寛仁親王牌で殿下来橋

グリーンロード
△前橋で七月二十八日、第十一回寛仁親王牌・世界選手権記念トーナメントの決勝レースが行われました。熱戦を制したのはベテランの松本選手。表彰式では寛仁親王殿下から、栄えある賜杯が下賜されました。また、萩原市長が松本



選手へ祝福の言葉を贈り、来場者へ感謝のあいさつ。次回の十二回大会も、来年七月に本市で開催されることとがすでに決まっています。